

平成 29 年度 第 2 回 アドバイザリーボード 議事要旨

1. 日 時：平成 30 年 3 月 16 日（金）15:00～17:00

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室

3. 出席者：

（委員）近藤議長、相澤委員、岡委員、田代委員、東嶋委員、戸田委員、山口委員、渡部委員、川原委員代理

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、泉統括役、松尾経営企画部長、岡安総務部長、前田経理部長、中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、高見産学連携部長、野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、河野臨床研究・治験基盤事業部長／創薬戦略部長、林革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長、針田戦略推進部次長、神谷戦略推進部次長

4. 議事

1. 日本医療研究開発機構の取組と課題について
2. データマネジメントプランについて
3. その他

5. 議事の概要

事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

議事 1 について、事務局より資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 着実に幅広く、これまで不十分なところにも次々取り組んでいて素晴らしい。
- データの不十分な登録にしっかり対応していただき、他の研究者にも周知してほしい。
- インターステラーは、国内ファンドが伸びない中、海外ファンドを取る支援としても重要。
- 認知症の取組は、日本全国でどういう体制でやるか見えにくく、力を入れてほしい。介護やケアの社会的サポートも注目すべきではないか。

- 子どもの成育については、これまで手薄で、この時期の疾患は長期に影響するので、ここに集中してほしい。
- データの登録状況でファンドを左右するのは、成果が出るようになるので、よいと思う。
- 難病の場合は登録件数を上げるのが難しいことに配慮していただきたい。
- IRUDの取組は、診断が付くと家族にフィードバックでき、合併症に先手を打てることも評価してほしい。
- 日本とリトアニアのケースマッチングで、リトアニアの患者に日本の患者にしていたケアをアプライしたら著効し、現地で大きく報道されたというのは、大変素晴らしい。
- AIにおいて、データの継続的な追跡を行える仕組みを作ることは大事な取り組みであり、その次には質の担保が大事となる。どのようなデータでディープラーニングしたかを審査するという議論もあり次のテーマとして質について考えてほしい。AIのデータについても、更に利活用できるようになることを期待する。

議事2について、事務局より資料2を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- データサイエンティストは評価科学をやる人になると思う。いいところ、悪いところ全体を見渡せる人を育ててほしい。
- AMEDで世の中が変わってきた。方向性を示しリードしている。それをもっと強化してほしい。IRUDの取組は実際にトップダウンになり、子どもの成育もトップダウンになっている。そこをもっと自信を持ってやってほしい。
- 日本の問題点としては同じような取組を個々に行っていることであり、それをAMEDが連携させることで、日本のビッグチャンスにつながるのではないか。

また、議事3について、事務局より資料3を基に説明を行った。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。